

平成21年度 科学研究費補助金（特別推進研究）
事後評価結果

| | | | |
|-------|-------------|------------------|---------------------------------|
| 研究課題名 | ダブルハイパー核の研究 | 研究代表者名 (所属・職) | 今井 憲一(京都 大学・大学院理学 研究科・教授) |
|-------|-------------|------------------|---------------------------------|

研究課題の総合的な評価

| 該当欄 | | 評価基準 |
|-----|----|------------------------|
| | A+ | 期待以上の研究の進展があった |
| | A | 期待どおり研究が進展した |
| ○ | B | 期待したほどではなかったが一応の進展があった |
| | C | 十分な進展があったとは言い難い |

評価意見

本研究課題の中心であった、米国ブルックヘブン国立研究所での実験が米国側の事情で中止に追い込まれたことは、極めて残念なことである。高エネルギー加速器研究機構（KEK）での実験データの再解析という努力は認められるものの、新しいデータが取れなかったということは、物理結果という観点からは残念ながら十分な進展はなかったという評価になる。

しかし、準備された測定機器、エマルジョンデータの高速自動解析装置は、大強度陽子加速器施設（J-PARC）での実験で使用されることが決まっており、本研究での支援がハイパー核のさらなる理解に繋がると期待される。